

fure-fure





■ 各学年の大学生生活

■ 1回生 ■



大学祭

(1日目は雨でした…)



1回生は、後期に入って様々な行事と学びを体験し、躍動感あふれる大学生生活を送っています。大学祭は、全員が役割を決めて取り組み、準備したフランクフルトは完売となりました。また、クリスマス会では、84名が一体となりダンスを披露するとともに、2～4回生との交流を深めました。講義では、『診断学』『薬理学』等の専門科目や、清拭や洗髪等の看護技術を学び、看護専門職としての知識や技術を習得しています。12月の『ふれあい看護実習』では看護師と行動をとるとし、これまで学んできたことが、実際にどのように展開されているのかを知り、様々な職種の方々の仕事を見学・体験させていただくことを通して看護師の役割を考える体験となりました。また、オリエンテーション講義では、大学院で学んだ教員の話聞き、自分の将来を考える機会を得る等、講義や実習等を通して今後の学習に対する動機づけを高めています。

■ 2回生 ■



2回生主催のクリスマス会

12月17日(土)、看護学部のクリスマス会が行われました。この会は毎年2回生が主催し、国家試験の追い込みに向かう4回生へ、全員合格を祈りエールを送ります。また、1回生の歓迎と、学年を超えた学生同士の交流や教員との親睦を図る目的もあります。2回生は忙しいなか時間を惜しんで準備に取り組んでいました。普段は控えめな2回生ですが、人情味と行動力があります。参加者やクラスメイトのことを思いながら、それぞれが担った役割を確実に果たす姿が頼もしく映りました。日々の学生生活では、この夏に初めての本格的な臨地実習を経験し、看護の面白さや難しさがわかった、専門科目の大切さが身に染みたと話す学生さんが多くいました。1月からは、講義に加え後期試験があります。講義内容もより専門的になり科目数も多いため、日頃からコツコツと試験勉強に取り組む姿もみられます。2回生の皆さんの自ら成長する姿に、未知なる力を感じる今日この頃です。

■ 3回生 ■

3回生は10月～2月初旬まで、地域看護、慢性期看護、精神看護、急性期看護、母性看護、小児看護の6領域で各2週間の実習をしています。これまでに修得した看護の基礎知識や技術を総動員して、対象の理解を深め、対象に寄り添った看護が展開できるように、日々課題に取り組んでいます。この領域実習は、3回生にとって卒業後の進路選択の動機付けにもなっており、将来の自分の姿を見据えながら、実習でしか学べない貴重な経験を糧にして、学生たちは一歩ずつ着実に成長しています。患者さんや地域の方々、各施設でご指導くださる皆様の温かいご支援やご協力に深く感謝申し上げます。



急性期看護実習

最終日の看護技術の振り返りの場面

■ 4回生 ■



保健師・助産師・看護師国家試験の受験書類作成終了後

4回生は、最後の実習である在宅実習と看護実践能力開発実習が終了し、1年間取り組んだ看護研究を論文として提出し、後は看護師・保健師・助産師の国家試験を残すのみとなりました。12月5日には、国家試験受験票作成会が実施されました。学生は、下書きから始め、事務職員の方々や教員とともに、何度も確認し合い、間違いがないように作成しました。写真は、作成会終了時に、中野看護学部長より国家試験勉強に向けて激励の言葉をいただいた場面です。学生は、授業、実習、看護研究と忙しい合間を縫って、問題集を繰り返し解き、さらには、8月以降毎月1回模擬試験を受けて実力の確認もしていました。4回生は、冬休みも返上して、3月27日の合格発表を全員が笑顔で迎えられるように、日々頑張っています。



学生委員会委員長 長戸和子



看護学部学生委員会は、学生さんが安全に、そして充実したキャンパスライフを送れるよう、全学学生委員会や健康管理センターと連携して大学生生活全般をサポートすることを目的として、1回生から4回生までの各学年担当教員と保健委員の教員計14名で構成されています。具体的には、学生の福利厚生に関すること、危機管理に関すること（事故予防対策、防犯対策マニュアル、キャンパス安全ガイドなど）、健康管理に関すること（「ヘルスパスポート」「健康管理のしおり」の活用など）、就職に関すること、学生の権利擁護に関することなど、幅広い事柄に対応する役割を担っています。

看護学部では、1～3回生は3名、4回生は4名の教員が学年担当として学生の皆さんを支援しています。学年担当教員は、健康状態や学習について、アルバイトやサークル活動なども含めた生活状況について、就職について、その他悩みごとや困りごと、心配なことなど、学生さんひとりひとりと定期的に個別面談を行って細やかに対応しています。看護学部は、必修科目が多い上に、1・2回生ではたくさんの学内実習、3回生は長期間の

臨地実習、4回生は臨地実習、就職活動、卒論、そして国家試験と、各学年、乗り越えなければならないことが次々とあります。このような中、大変な緊張や疲れ、ストレスを感じながらも、一生懸命真摯に課題に向き合っている学生の皆さんが、4年間を通してそれぞれの目標に向かって力を発揮し安心して取り組めるよう、学習環境や人的、物理的環境を整えてサポートしていきたいと思っています。

保護者の皆様も、学生さんのことや大学のことでご心配なことや気がかりなこと、お気づきのことがあれば、いつでも学年担当教員やfure - fure!にご連絡ください。

看護学部の活動ー地域学実習 I 実習担当 竹崎久美子、小原弘子、井上さや子



高知県立大学では、2015年度から「域学共生」という理念のもと、地域再生や活性化に向けた取り組みのできる人材育成を目的に教科と実習を行っています。今回は、1回生で実施される「地域学実習 I」についてご紹介します。

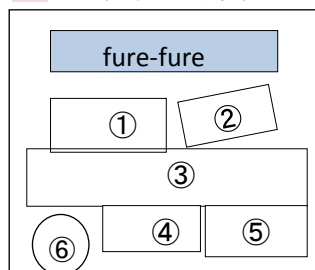
この実習は、高知県下の市町村から提示いただいた20の地域課題に対し、全学部横断的に15人1グループとなり地域で活動します。課題は、地域コミュニティの再生や自主防災組織の結成、伝統行事や文化の継承、過疎高齢化地域の活性化といった内容です。写真は、高齢化と人口減少に対して、集落活動センターの取り組み等を通して地域の活性化に取り組んでいる高知県梶原町での活動の様子です。看護・社会福祉・健康栄養の3学部の学生から成るメンバーで、2泊3日寝食を共にして



梶原町の生活を体験しました。学生たちは、事前にWeb資料や文献で地域のことを学習した後、実際に街を歩き、集落活動センターの取り組みや、町役場・社会福祉協議会・NPO法人の方々、「この自然ある地元で暮らしたい」という思いで東京から帰郷されパン屋を営んでいるご夫婦からお話を聞きました。また梶原高校での座談会では生徒ひとりひとりを大切に育てようとする教員の姿、「梶原町に恩返ししたい」という高校生の発言を聞き、地元への愛着や人と人とのつながりが梶原町の強みであること、さらに行く先々で自分達を温かく迎えてくれる梶原町の人々の温かさも強みであると学生達は感じました。3日間の活動成果報告会では、学生たちから「会いに行きたい人がいる～梶原～」というキャッチフレーズを梶原町の方々に発案、「人の良さ」を魅力にIターンIターン者を増やす取り組みについて、提案しました。

梶原町の方々からは、「今まで自分達が思いもよらなかった視点をもらえた」と大変喜んでいただけました。実習後は学生達からも、「自ら地域のために活動する力を、この実習で身につけるきっかけとなった」との感想が聞かれ、一人の地域住民として本気で地域と向き合い、課題解決に向けて行動を起こす力を身につける実習となっているようでした。

表紙の写真



- ①フィジカルアセスメント演習：1回生
- ②看護実践能力開発実習：4回生
- ③クリスマス会：4回生
- ④クリスマス会：2回生
- ⑤急性期看護実習：3回生
- ⑥看護学部棟の月下美人



教育の工夫『アクティブラーニングの要素を取り入れた高齢者擬似体験』

2回生の「老人の健康と看護」では、高齢者擬似体験を実施しています。高齢者擬似体験は、未だ学生が体験したことのない高齢者の世界を理解し、高齢者の生活上の課題を検討すること、体験を通して高齢者のケアの在り方を考えることが目的です。なかでも大事にしている視点は、単なる体験に留まらず学生が擬似体験のプロセスを通して身近な高齢者を想起し、いかに考え、行動し、実践するかといったアクティブラーニングの要素を取り入れた能動的学習を重視していることです。そのため、学生主体となるようにペアの学生がもう1人の学生に、体験場面ごとに問いを投げかける“アクションカードの活用”や個人の体験内容を深める“リフレクションシートの活用”、学生同士の相互作用による学びを深める“ピアディスカッション”の時間を設けるなど、教育手法に工夫を凝らしています。また、個人ワークやグループワークをもとに学んだ内容は、“ポスターラウンド”を通して共有しました。体験した内容を他の学生にわかりやすく伝えたり、質問に対応することは、知識以上の活動を伴い、思考力、表現力、統合力といった思考プロセスのアウトカムを伴います。学生のレポートからは、高齢者は普段、加齢変化にどのように対処しているのか？看護師としての接し方とは？など体験や発表を通して新たな問いがうまれていました。



高齢者擬似体験の様子



ポスター発表の様子

高知県は、高齢化率全国第2位の長寿県であり、身近なところにお年寄りの生活と知恵が溢れています。擬似体験を通してうまれた問いを紐解くヒントは日常のお年寄りとの出会いに潜んでいるのです。大学内の学びから新たな問いを持ち続け、身近なお年寄りの生活や地域に視野を広げて、高齢者の持っている力を引き出すことのできる医療者となるよう、自らの学びを発展させて欲しいと切に願っています。

高知大学
老人看護学領域

サークルの紹介

■エスコーターズ■ エスコーターズは平成13年より、動く街の灯台として、誰でも安心して、楽しく商店街に来られるように、高知市中心商店街にて、毎週日曜日の午前11時から午後4時30分まで、3～4人が数グループに分かれ、挨拶・案内・介助・整理・清掃を行っています。また、毎週木曜日の放課後には、必ずミーティングを行い、活動の共有や相談などを行っています。他にも、商店街を盛り上げるために、イベントの運営のお手伝いをしたり、年に2回自分たちでイベントを企画・実施したりしています。エスコーターズと商店街がお互いに成長していけるような関係を築いていきたいと思っています。

2回生 福原亮二



■室戸ボランティアリーダー■ 私たち、室戸ボランティアリーダーは高知大学・高知県立大学・高知工科大学の、子供・自然・キャンプが大好きな学生が集まっているサークルです。主に「国立室戸青少年自然の家」や「高知県立青少年センター」で事業のサポートを行っています。ここでは、子供たちとキャンプファイヤーや野外炊事、夏にはシュノーケルなど、自然の中で様々な活動を楽しんでいます。県内だけでなく県外での活動もあり、他県のリーダーと交流を図っています。季節ごとに花火・お月見・スポーツ大会などのイベントも定期的開催しています。今後も、多くの事業に参加して、リーダーとしてのスキルアップを目指し、大学をこえたつながりを広げていきたいと思っています。

1回生 氏原愛絵 岡本唯奈



■バドミントン部■ 現在バドミントン部は4学部の1～4回生までの男女約70名で活動しています。週3、4回池キャンパスと永国寺キャンパスの体育館で練習しています。部員同士の仲が良く、先輩がとても優しいので、学部や先輩後輩の垣根を越えた交流ができます。定期的に部内でスポーツ大会を開催したり、スキー企画をしたりとイベントも多々あり、大学生活をより楽しむことができます。これからも活動の幅を広げ、大学生活でしかできない貴重な経験を通して、部員みんなで成長していきたいと思っています。

2回生 井筒 迅

[ニュースレターの名前の意味] fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp